

# 2024年度事業計画

---

一般財団法人日本ドッジボール協会

# 2023年度事業状況：国内

## ◎国内の活動規模は順調に拡大

2024年1月時点

- 登録競技者

※小学生はチーム登録のみ  
3130名（中学生1285名）

U15（中学生）新規登録  
前年+620名

- D-1/D-1G 631チーム
- S-1/S-1G 228チーム

小学生はほぼ同数  
シニアチームは増加

- 公認審判員(4436名)

- A級 34名
- B級 413名
- C級 3989名

前年+350名

- 公認指導者(3197名)

- A級 580名（登録完了者）
- B級 1252名
- C級 1365名

スポーツドクター受講中1名

前年+150名

## △課題の多くは継続

代表チームを推薦できない  
地域への対応

B級以上の人数は足踏み  
地域間の審判員数と技術  
格差の拡大

重大な違反行為への対応

## ※ 違反行為の通報・相談の増加への対応整備

スポーツの自律を齎かす要素

加盟協会間の倫理規程類の整備状況、調査・処分手続きに関する重要性認識の格差  
コンプライアンス委員会の整備遅れ

活動規模は順調に拡大し、スポーツ共通の課題とされていた小学生への過度な専門性追求への懸念も、中学生部門の拡大と共に緩和に向かっています。合わせて、アスリート委員会は規程を整備し、委員選定段階に入りました。

しかしながら、他の課題は継続しています。

さらに、NFに求められる要求が高くなる中で、違反行為の通報・相談の中には深刻な事例や、都道府県協会の組織運営体制に原因がある懸念も生じており、平常時からの対応能力の整備・学習が新たな課題となっています。

## 2023年度事業状況：海外

### ◎国際大会では引き続き活躍

マルチボールアジア予選

女子優勝、男子準優勝、混合第3位

参加全カテゴリーにて世界大会出場権獲得

### 2024世界大会

リヤドもしくはドバイの予定。2023年度内に公表される。

### △競技成績以外の課題は継続

海外団体の動向に頼らない計画

収支構造の最適化

選手以外の人材育成と、シングルボール種目の拡大

海外の大会に挑戦する理由の明確化  
と、それを反映する委員構成  
各委員会が考える国際化

2022世界大会に続き、国際大会でも素晴らしい成績を残した点は、種目を問わない対応能力の高さを示しています。しかしながら、これまでの成果を通じて得た経験を、広く国内の活動や課題の解決へどのように役立てるか、という道筋はまだ議論が不足しています。

そのため、海外団体の動向がわからないと計画や予算策定が進まないという課題も継続しています。

国内・海外ともに、委員会間の認識のすり合わせと、段階的な連携の両方が必要となる難題が残されています。

# 難題の解決に向けて①

2023年度計画から編集

- ❖ 継続する課題のため、1年前の資料から編集しています。  
赤枠の部分の整理を重視することにより、実効性のある委員会の構築を目指します。

## 卒業後の競技継続環境の強化

## 競技会「以外」の事業の点検・充実

競技レベル（公式予選～全国大会、レク）に合わせた構築を目指しつつ、  
勝敗以外の価値（もしくは称えるにふさわしい勝利）も探求する

競技者の役割

指導者の役割

審判員の役割

スタッフ  
役員の役割

協会外の利害関係  
者へ望む役割

協会理念・目的と照らし合わせた際の、それぞれの理想の形と、現在の課題の共有・体系化

スポーツ団体ガバナンスコード  
に対応した委員会の設置

アスリート委員会

他の種目、海外に出て得たもの。  
外から見た国内ドッジボール

ドッジボールを通じて大切にし  
たいもの、実現したい公益

コンプライアンス委員会

※詳細は次のページ。いずれも、女性委員の割合を30%以上とする。

## 立場や社会環境が変わっても、価値を見失わないための設計

(もし、立場が変わることにより価値観も大きく変わるとしたら、どこかに改善の余地がある)

# 難題の解決に向けて②

2023年度計画から編集

- ❖ 前頁に続き、1年前の資料から編集しています。  
より具体的な動きとするため、既存の事業と組み合わせて取り組みます。

## アスリート委員会・コンプライアンス委員会の詳細

	アスリート委員会 進行中	コンプライアンス委員会
委員構成	日本代表選手、または代表選手経験者を中心 ただし、普及事業への関与・他の資格の取得等、競技成績以外の経験も重視する	各専門委員会（担当）から1名以上 高い専門性を必要とする分野に関しては、協会外部からも登用 ※単独ではなく、倫理委員会内に設置の場合もあり
ガバナンスコード上の主な役割 (他律)	アスリートの権利に関する検討・提案 代表選考・競技会の手続き・運営に関する検討・提案	スポーツインテグリティを脅かす要因（ガバナンス・コンプライアンスの欠如、自治・自律に対する外部からの圧力、汚職・腐敗、人種差別、ドーピング、八百長・不正操作、反社会的行為、暴力・ハラスメント）を排除するための啓発事業
主に 協会固有 の役割 (自律)	<ul style="list-style-type: none"><li>アスリートの価値を生かしながら、下記の課題を解決するための検討・提案<ul style="list-style-type: none"><li>継続可能な代表事業運営モデル</li><li>次世代の競技者（シニア⇒小学生）への経験の継承、環境改善サイクル</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>上記の要因を、競技特性・地域特性等の情報と合わせて分析。</li><li>地域の運営体力の格差や年齢分布に応じ、実施可能な手段の検討や、達成までの順序の整理</li></ul>

# 難題の解決に向けて③

## 既存事業の強化によるアプローチ

2024年度は下記2事業をスポーツ振興くじ助成事業として申請し、予算を拡充します。それぞれの事業単体の目的である技量向上や普及は重視しつつ、その特性に着目することにより、各開催地で、前述の課題解決へのヒントや人材を見いだすよう取り組みます。



### 国内全体のゲーム水準の向上と安定

(審判員) 中央研修会

- 全ブロック+沖縄の10会場
- 250名

より高い視点

地域の代表を選出する目的を再認識  
常識や慣例を点検

外部から催促されたからだけではなく、自分たちが目指すドッジボールを体現するために、コンプライアンス形成。  
トラブル発生時の解決能力強化。

公にPFとなる意義を理解した上で、スポーツ協会へ加盟する都道府県を毎年輩出

より広い視野  
新たな視点

マルチボール体験会・交流会・  
審判員認定講習会

世界を繋ぐスポーツ文化の多様性の理解

- 4ブロック400名
  - 6月8日~9日 岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム（岐阜県岐阜市）
  - 2025年2月1日~2日 岡垣サンリーアイ（福岡県遠賀郡）
  - 関東（調整中）
  - 関西（調整中）

# 2024年度全国大会事業

- 全国大会は、例年のとおり4大会となります。
- 例年の春の大会に加え、小学校卒業後の競技継続の土台形成を強化するため、10月の全日本総合選手権もスポーツ振興基金助成事業として申請しています。

	日程	大会名	場所
①	8/18(日)	第33回夏の全国小学生ドッジボール選手権  ● 都道府県予選代表 小学生48チーム1000名。 ● 同一会場での5大会連続開催の5回目。	アダストリアみとアリーナ 茨城県水戸市
②	10/6(日)   スポーツ振興基金助成事業 独立行政法人日本スポーツ振興センター	2024J. D. B. A. 全日本総合選手権  ● U15（中学生）部門を継続。中学生～社会人9ブロック52チーム（32チーム+20チーム）800名 ● 前日のイベント等により、県外参加者計1000名以上を目指す。	石川県金沢市※地震の影響により調整の可能性あり いしかわ総合スポーツセンター
③	12/1または8(日) アリーナ側で調整中	第11回全日本女子総合ドッジボール選手権  ● 滋賀県初開催。 ● 2023年度より、52チームへ拡大	滋賀県大津市 滋賀ダイハツアリーナ
④	2025/3/30(日)   スポーツ振興基金助成事業 独立行政法人日本スポーツ振興センター	第34回春の全国小学生ドッジボール選手権  ● 福岡市での連続開催。4年連続予定の2回目。 ● 夏と同様、都道府県予選代表小学生48チーム1000名	福岡県福岡市 福岡市総合体育館
		※4つの全国大会は、引き続き全てオンライン上でもライブ配信します。	

# 専門委員会単位の定例事業／会議

各委員会から新規資格取得希望者及び有資格者向けに行う養成講習会・認定会、また、有資格者向けに行う講習会・研修会等の仕組みは基本的に2023年度までと変更はありません。なお、会議と合わせて、開催方法や回数が適切かどうかは、適宜検討を進めます。

## ●競技委員会

- 公認審判員養成講習会 2024年度の仕様変更は無し。公式ルール&審判テキストブックは2025年度改訂に向けて編集を進める。
- (中央研修会は前述のとおり)

## ●指導委員会

- 公認指導員養成講習会 2024年度の仕様変更及びテキスト変更は無し。
- 有資格者対象：公認指導者更新講習会 オンデマンドにて実施。詳細調整中。

## ●アスリート委員会

- 最初の委員決定後、オンライン会議予定。

主な会議体につきましては、次のとおりとなります。

## ●理事会6回・評議員会2回（6月末／2月末）・ ブロック長会議1回（時期未定）※

※今後の中長期的な課題についてブロック間の自主的な情報共有・制度調整の促進を目指せる構成を協議し実施

## (参考) 上達スピードや活動環境に応じた役割の整理

実線：対象事業が明確な分野

点線：未設計または不明な分野

普及・DA・代表経験者に  
活躍を期待する分野

- 広報としての影響力確認  
各年代のエントリー層(黄色部分全般)を対象として開いた全ての教室等の集計と検証

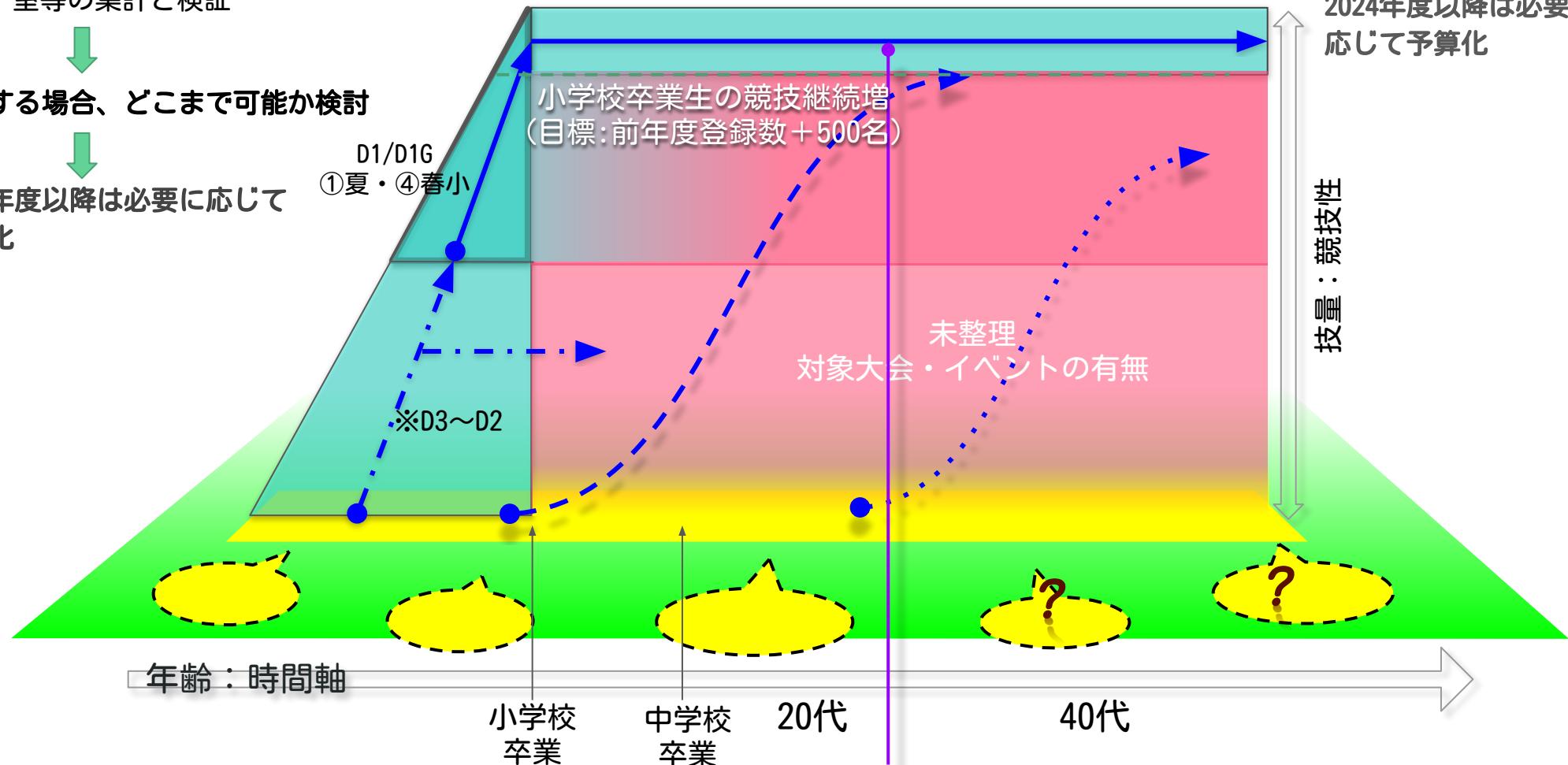
拡大する場合、どこまで可能か検討

2024年度以降は必要に応じて  
予算化

A級指導員の活躍を期待す  
る分野

- 点線部分への対応例の有無  
→ ない場合は対応案検討  
→ ある場合はその事業の拡充案検討

2024年度以降は必要に  
応じて予算化



競技会としての観点では：もし各年齢の競技人口が同じ場合、ドッジボールの競技特性が最も引き出される年齢の推定  
⇒その年齢で最も技量を発揮できる環境を目指す

例：女性24歳 男性28～32歳